



HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

北海道立教育研究所
令和6年度プロジェクト研究

高等学校における
探究的な学習の評価に関する研究

探究的な学びに関する
実践事例集



The Hokkaido Education Research Institute
北海道立教育研究所

北海道立教育研究所令和6年度プロジェクト研究

高等学校における探究的な学習の評価に関する研究

社会の変化が激しく予測不可能になっている中で、これからの社会を生きる子ども達に必要な資質・能力を育むために、各教科の指導においては、教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら探究的な学習活動を充実させていくことが求められています。このことを踏まえ、道研では、令和5年度、問題解決や探究的な学びの充実をテーマにプロジェクト研究に取り組みましたが、探究的な学びの一層の充実を図るため、本研究テーマを設定しました。

研究の目的と研究方法は、次のとおりです。

研究のねらい(目的)

教科における探究的な学びの一層の充実を図るためには、生徒の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、各プロセスに応じて生徒の学びを振り返る指導と評価の一体化が大切であることから、探究的な学習を取り入れた各教科の指導と評価の在り方、方法等を提示し、高等学校における授業改善に資することをねらいとしています。



研究の方法

研修講座「教科研修～探究的な学習における指導と評価の充実～」の受講者から、研究協力者を依頼し、次のとおり研究を行いました。

- ・研究協力者から好事例を収集するとともに実践リーダーとなってもらう。
- ・実践をもとに「探究的な学習と評価に関する実践事例集」を作成し、研究成果の普及を図る。



研究と研修の関係

本研究は上記の研究の方法で示したとおり、各教科の研修講座の受講者から研究協力者をお願いし、好事例を集めるとともに実践リーダーになっていただくということで、研修との往還により進める研究となっています。

下の図は、研修講座「教科研修～探究的な学習における指導と評価の充実～」の流れを示しています。研修で理解を深めていただいたことを、職場実践として、すぐ指導に生かしていただき、その成果と課題を、次の研修につなげていただくこととしています。

この職場実践の時期に、下の図の中央にあるように、当プロジェクト研究の担当者が、授業を参観したり、助言したりすることを通して、探究的な学習を取り入れた授業をさらにブラッシュアップしてもらい、先生方の実践をもとに探究的な学習と評価に関する実践事例集を作成しました。

研修講座「教科研修～探究的な学びの充実に向けた授業改善～」の内容

○ 国語、地歴・公民、数学及び英語（各教科 全3回）

【研修日程・内容】

① 2h 6/10～6/28

オンデマンド型研修 「講義・演習」

- 新学習指導要領に対応した探究的な学び

6月～7月
職場実践

- 単元の指導と評価の計画の作成

② 3h

国 7/11 地・公 7/10
数 7/9 英 7/12

遠隔型研修Ⅰ 「協議」

- 探究的な学習の充実に向けた授業改善

7月～11月
職場実践

- 改善した単元の指導と評価の計画の実践

③ 3h

国 11/14 地・公 11/13
数 11/9 英 11/12

遠隔型研修Ⅱ 「協議」

- 実践成果発表及び交流

○ 理科（全4回）

【研修日程・内容】② 0.5h 7/22～

① 1h 7/19
遠隔型研修Ⅰ
「説明・協議」

- 課題の明確化
- STEAM教育との関連性

オンデマンド型研修 「説明・講義」

- 理科教育の現状と課題
- 授業改善と評価の充実
- 実習のポイント

資料作成や授業実践に当たっては、運営者がフォローアップします。

③ 2日間

(6.5h, 6h) 8/29～8/30
集合型研修
「観察、実験等を行う実習」

- 「物理」「化学」「生物」「地学」の観察、実験 ※4科目の中から1科目選択
- 実社会での問題発見・解決

9月～1月
職場実践

- 研修の成果を基に自校で行う授業実践

④ 2h

1/27
遠隔型研修Ⅱ
「実践交流」

- 実践成果発表及び交流

実践事例集を全道の教員へ公開するとともに、研修等の資料として普及

探究的な学びに関する実践事例集

目次

1 探究的な学びの充実の鍵となる4要素 (P 1～)

- (1) 社会とのつながりを意識した学び
- (2) 教科等横断的な学び
- (3) 協働的な学び
- (4) ICTの活用

2 探究的な学びを充実させる指導と評価の在り方 (P 2～)

- (1) スクール・ポリシーを踏まえた育成を目指す資質・能力
- (2) 単元の指導と評価の計画の作成
- (3) 形成的評価による指導と学習の改善

3 各教科の実践事例 (P 4～)

- (1) 国語
- (2) 地理歴史・公民
- (3) 数学
- (4) 理科
- (5) 英語

1 探究的な学びの充実の鍵となる4要素

北海道立教育研究所では、令和5年度プロジェクト研究において、「問題解決や探究的な学びの充実に向けた授業改善に関する研究」を行い、その研究成果として探究的な学びの充実させるためのポイントを4つに整理しました。

(1) 社会とのつながりを意識した学び

「社会に開かれた教育課程」の理念に基づき、社会とのつながりを意識した「生きる力」の育成が求められています。学習活動では、「理解していること・できることをどう使うか」に重点を置き、知識を活用する力を育む必要があります。基礎的な知識や技能は、単なる理解にとどまらず、それを社会と結び付け、よりよい人生を送るために活用できることが重要です。

生徒が社会の中で学ぶことで、自らの力で人生や社会をよりよくできるという実感を持ち、困難を乗り越える力や希望につながります。そのため、社会と連携・協働した学習活動を充実させることが、今後ますます求められます。

なお、社会とのつながりを意識した学びを実践する際は、次の2点に留意してください。

- ・科目の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること。
- ・「社会の変化に主体的に対応する力」や「課題を見いだし追究する力」を養うこと。

(2) 教科等横断的な学び

急速な社会の変化に対応するため、学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成し、各教科の学びを関連付けて探究的に学習することが求められるとともに、文理の枠を超えた教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ることが求められています。

教科等横断的な学びを推進するために、次のような取組が考えられます。

- ・他教科の年間指導計画やシラバスを参考にして、他教科の単元や題材で扱う内容や資質・能力について知る、確認すること。
- ・他教科の単元や題材で扱う内容や資質・能力とのつながりを意識して授業を計画・実施すること。
- ・学校全体で単元配列表等を作成することで、教科等横断的な学習の可視化を図ること。
- ・複数の教科で単元の指導と評価の計画を合同作成し、連携して授業を実施すること。

探究のプロセス（課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現）を通じて学びを深め、他教科との連携を強化することが、学習意欲の向上につながります。教員間の情報共有を密にし、系統性や関連性を考慮することが大切です。

(3) 協働的な学び

主体的・対話的で深い学びを実現するために「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることが求められています。探究的な学びを通じ、多様な他者と協働して、持続可能な社会の担い手となることができるよう、必要な資質・能力を育成することが重要です。

授業では、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を個別の学びに還元するサイクルを形成することが重要です。また、ICTを活用しながら、主体的・対話的で深い学びを促進し、学習指導要領の理念に沿った授業改善を進めていくことが期待されています。

(4) ICTの活用

急速な情報化の発展に伴い、授業においてもICTを日常的に活用することが求められています。ICTは、学習の質を向上させるだけでなく、教員の働き方改革や特別な配慮が必要な児童生徒の状況に応じた支援の充実などにも寄与します。

生徒の身の回りには多様な情報機器があり、授業においてもICTを活用することで、探究的な学びの充実が期待できます。教員がICTの機能に習熟し、日常的に活用することで、効果的な授業設計や学習の深化につながります。

2 探究的な学びを充実させる指導と評価の在り方

本年度のプロジェクト研究では、「高等学校における探究的な学習に関する研究」を行い、その研究成果として探究的な学びを充実させる指導と評価の在り方について3つの視点で整理しました。

(1) スクール・ポリシーを踏まえた育成を目指す資質・能力

探究的な学びを取り入れた授業において、評価の前提となる目標を立てる際には、学びを通してどのような力を身に付けさせたいのか、スクール・ポリシーとのつながりを意識することが大切です。

高等学校学習指導要領においては、「グラデュエーション・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」の3つのスクール・ポリシーを起点として組織的かつ計画的に、教育活動の改善・充実が求められているところであり、これらに基づき編成される教育課程については、第1章総則で次のとおり規定されています。

教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科・科目等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。

各学校においては、学校教育目標が達成された生徒の姿を、育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って具体化するなどして、学校教育目標を分析的に捉えることで、各教科・科目等の指導を通して育成を目指す「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を明確にし、学校教育目標と各教科・科目等において定める目標がつながることが必要です。

(2) 単元の指導と評価の計画の作成

各教科・科目等においては、育成を目指す資質・能力を明確にし、それらをバランスよく育むための年間指導計画と、それに基づく単元の指導と評価の計画の作成が不可欠です。指導と評価の計画の作成に当たっては、探究のプロセスを位置付けることが重要であり、探究的な学びを通して主体的・対話的で深い学びを実現することで、育成を目指す資質・能力をバランスよく育むことができます。

なお、探究のプロセスとは、①【課題の設定】②【情報の収集】③【整理・分析】④【まとめ・表現】のことです。なお、このプロセスは、いつも①～④が順序よく繰り返されるわけではなく、順番が前後することもあり、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われる場合もあります。（下図は「[今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開](#)」から引用）

- | |
|--------------------------------------|
| ①【課題の設定】体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ |
| ②【情報の収集】必要な情報を取り出したり収集したりする |
| ③【整理・分析】収集した情報を、整理したり分析したりして思考する |
| ④【まとめ・表現】気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する |

(3) 形成的評価による指導と学習の改善

資質・能力の育成には、指導と評価の一体化が求められており、評価については、記録に残す評価だけではなく、指導に生かす評価も適切に行うなどして、教師の指導の改善と生徒の学習の改善を図ることが重要です。

探究のプロセスを取り入れた授業においても、形成的に評価し、学習目標を踏まえた探究のプロセスが改善・充実されることが重要です。

教師の指導の改善の観点からは、例えば、生徒が必要な情報を収集できているかを見取り、必要に応じた手立てを講じることで、学びの一層の深まりを促すことができます。また、生徒の学習の改善を図る観点からは、教師による評価に加えて、生徒による相互評価や自己評価などを通じて、自らの学びを振り返る機会を設定することにより、生徒自身が学習の調整を図ることができます。

3 各教科の実践事例

No.	教科	学校名	研究協力者	ページ
1	国語	北海道紋別高等学校	安次富 裕 真 教諭	P 5, 6
2	国語	北海道留萌高等学校	岡 本 岳 之 教諭	P 7, 8
3	地歴	北海道興部高等学校	成 田 明日香 教諭	P 9, 10
4	公民	北海道旭川東高等学校	白 田 裕 基 教諭	P11, 12
5	数学	北海道枝幸高等学校	佐 藤 桂 輔 教諭	P13, 14
6	数学	北海道士幌高等学校	平 圭 佑 教諭	P15, 16
7	理科	北海道釧路北陽高等学校	矢 萩 菜 子 教諭	P17, 18
8	理科	北海道鹿追高等学校	吉 岡 直 哉 教諭	P19, 20
9	英語	北海道苫小牧東高等学校	田 中 悠 太 教諭	P21, 22
10	英語	北海道南茅部高等学校	藤 内 大 樹 教諭	P23, 24

自由進度学習を位置づけた探究的な学び

【概要】

北海道紋別高等学校の安次富教諭は、『伊勢物語』を題材とした単元で、生徒の興味・関心に応じて生徒自らが設定した課題をグループごとに協働的に解決をしていく授業を行っています。



1 実践

【単元の目標】

「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができる。
(思考力、判断力、表現力等)

【単元の指導と評価の計画】

時間	ねらい・学習活動	指導上の留意点
2次 情報の収集	・ 古典作品の研究方法を身に付け複数の候補から探究する段を決める。 ・ 探究するために必要な情報を集める方法を学び、探究活動を行う。(文献、オンライン情報)	探究活動で用いる情報は、「情報の出所を確認し客観的事実に基づいた内容であるか」を意識して見極めるよう指導する。 生徒が課題設定を行い、グループごとに問いの解決のために、協働的に学習を進める。
3次 整理・分析	・ 探究した内容を発表し、相互評価を行う。相互評価の内容を踏まえ、発表内容を修正する。 「まとめ・発表」を行い、探究した内容の相互評価を行うことで、読みを深めていく。	相互評価の内容を踏まえ、グループ発表のビデオを各自振り返りながら発表内容を修正する。読みが深まるための気づきを拾いながらグループに還元していく。 ※あくまでも読むことを主眼に置いているので、発表方法の工夫も指導するが、読みを深めるための助言を意識する。



単元の指導計画はこちら

2 実践のポイント（ねらいを達成するための学習過程の工夫としての探究）

生徒の学習の改善を図るとともに、教師自らの指導の改善につなげるために、「形成的評価（指導に生かす評価）」を行っています。

【グループによる自由進度学習】

グループで生徒自らが課題設定を行い、学習を進めています。グループごとに情報の収集の方法や、そのための学ぶ場所を検討し、自由に協働的な学習を進めています。

生徒自らが興味・関心や能力・特性等に応じて自ら教材・方法・ペースを選択できる学習環境を適切に確保しています。



（グループでの話し合いの様子）

【生徒の思考を促す適切な指導】

授業者は、生徒の学びの状況をきめ細かく見取りながら、生徒の課題に対して単に答えを伝えるのではなく、情報の収集の手立てや、分析を進めるためのヒントとなるような内容を伝え、生徒自らの主体的な学びを促進するような声かけを行っています。



（授業者と生徒の対話の様子）

【ICTを活用した評価の工夫】

スプレッドシートを用いて共同編集をすることで、生徒の思考の過程や、作業の進捗を随時確認することができるよう工夫しています。生徒の思考の過程を即時に見取ることで、主体的に学習に取り組む態度の評価につなげています。

①本文（現代語訳）を読んで気になったことを挙げていく【個人】

②キーワードを実際に検索をかけて情報の精査について学ぶ

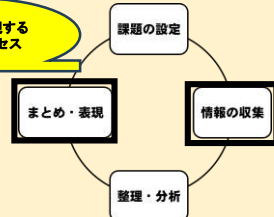
→情報の出典について述べられていればB
その具体が示せていればA

③気になった点をグループで話し合い探究テーマを決めていく

（生徒が使用したスプレッドシートの画面）

3 国語科における探究を充実させる指導と評価のポイント

- 探究させる際には、課題設定や解決方法を教師が必要以上に教え過ぎてしまうことによって、生徒が自ら学ぶことを妨げるようなことがないように留意する必要があります。
- 生徒一人一人の学習状況を把握するために、1人1台端末の機能を生かすことによって、生徒の取組をきめ細かく見取り、形成的評価につなげることが可能となります。
- 生徒の自由度の高い探究的な学びにおいては、形成的評価を適切に行うことで、適宜授業者の指導を見直ししながら、より生徒の学びを高める指導をすることができます。



言葉を探究する営みと探究のプロセスを結び付けた学び

【概要】

北海道留萌高等学校の岡本教諭は、言葉の使い方に関する評論を題材とした単元において「情報の収集」の過程で「コーパス」を用いることで、生徒が自ら問いを立てながら言葉そのものについて探究をする授業を行っています。



1 実践

【単元の目標】

「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすることができる。

（思考力、判断力、表現力等）

【単元の指導と評価の計画】

時間	ねらい・学習活動	指導上の留意点
2次 情報の収集	・「問い」を見つける。 ・「ことば」をテーマとした「書く」活動をすることを理解する。 ・「アガルとノボル」の問いやそれに対する答えが確かであることを「KOTONOHA『現代日本語書き言葉均衡コーパス』少納言」を用いて考察する。 ・言葉に関する問いを考える。	・柴田武を読み、「ことば」に関する問いについて興味をもたせ、それについて扱うことを明示する。 ・コーパスの使用の仕方や用例の見方など、ツールの活用の仕方もここで確認する。 ・「個別の用例」が「一般化」されていく過程を重視する。 ・あらかじめいくつかのテーマ文を用意し、それをもとに考える （〈例〉「わく」の同訓異字の使い分けについて）
3次 まとめ・表現	・集めた情報をもとに妥当性を吟味し、伝えたいことを明確にする。 ・問いに関する情報をコーパスから集め、それらの妥当性について吟味し、結論を導き出す。 ・導き出した結論とそれらを支える用例データをワークシートにまとめる。	・文章を書くことではなく、情報を吟味したうえで伝えたいことを明確にすることが大事である。そのため、文章を書くのではなく、簡単な構成図にそれぞれの情報を整理する形で書くことができるワークシートを用意する。

生徒の興味にしたがって、問いを立てながら、コーパスを用いて「情報の収集」を行っている。

集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にして文章を書くまとめ・表現を行う言語活動。



単元の指導計画はこちら

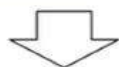
2 実践のポイント（ねらいを達成するための学習過程の工夫としての探究）

コーパスを用いるなど、情報の収集の方法としてICTを用いて行う環境を整えることで、学習者自らが主体的に学習を進めることにつながっています。

【「言葉」を探究する営み】

問い → 仮説 → 用例の収集 → 用例の分析 → 結論（答え）

「課題の設定」 → 「情報の収集」 → 「整理・分析」（→ 「まとめ表現」）



- ・ 探究的な学習のプロセスと親和性の高いものである。
- ・ 個別の用例を一般化するという帰納的な要素が強い。

【評価の実際】

○生徒の立てた問い

「やばい」は西暦何年代から一般的に使われるようになったのか（用例が多くなったのはいつ頃か）

○生徒の記述内容

「伝えたいこと」(まとめ)

やばいは1990年代までは警察白書などで(物色時間は長いとやばいので3分くらいだ。)といったように本来の意味で使われていたが、2000年代に入ってから本来の意味以外でもやばいと使われるようになった。(ほんとにリアルに鳥肌たった。やばいよ！まじおめでどう！などと感動や喜びを表現するのに使っている)。またやばいを使った文章が増えたのはこの頃からである。この背景にはインターネットの普及が関わっていると考えられる。2000年代にやばいを使った用例の多くがヤフー知恵袋やYahooブログといったインターネットを媒体とするものが由来であり、新聞などからは用例を見つけることができなかった。このことからやばいはインターネットを中心に使われていて、多くの場面で使用されることで段々と意味が追加されていったと考えられる。そして使い勝手が良くなった結果、私達の現代社会で広く普及していったのだろう。



○評価（A評価）

実社会の中から「やばい」という言葉に着目することで課題設定をして、それを題材とし、コーパスを用いて集めた用例数や用例の具体といった情報の妥当性を吟味しながら分析を行い、伝えたいことを明確にすることができている。

3 国語科における探究を充実させる指導と評価のポイント

- 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立てることで、生徒の自律的な学びが期待できます。
- 単元ごとにどの探究のプロセスの中で重視するかを変えることにより、系統的に探究の力を高めるように意識することができ、評価の焦点化が図られます。
- ポイントを絞って評価を行うことに留意し、「指導の評価化」に陥らないようにすることが必要です。

ICTを活用した形成的評価を目指して

【概要】

北海道興部高等学校の成田教諭は、歴史総合の大項目C「国際秩序の変化や大衆化と私たち」の中項目(2)「第一次世界大戦と大衆社会」において、1人1台端末を活用し、毎時の学習状況を振り返る「学習記録シート」を活用することで、生徒個々の課題への取り組み状況を把握しながら授業を展開しました。



1 実践

情報の収集

整理・分析

○ 単元の指導と評価の計画

詳細はこちら



3 指導と評価の計画（5時間）※ ○：評定に用いる評価 ●：学習改善につなげる評価				
第○次	指導項目	問い・学習活動	知	思
第1次	第一次世界大戦	【単元を貫く問い】第一次世界大戦は、世界をどう変えたのか。 各次の問い：第一次世界大戦は、なぜ起こったのか。 ・第一次世界大戦が発生した要因と発生前後の国際関係を理解する。 ・当時の国際関係について資料をもとに多面的・多角的に考察する。	○	●
				定期考査（知） ・中学校の学習も踏まえ、第一次世界大戦が発生した要因と ている。 学習記録シートの記述内容（思） ・当時の国際関係について資料をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。

毎回の授業で、単元全体を貫く問いと関連した本時の問いを設定

生徒が設定した課題について主体的に探究するためのヒントとして資料を用いる。

○ ワークシートと連動した学習記録シートと資料集

歴史総合 授業ワークシート No.23 2年A組 冊

第2期 国際秩序の変化や大衆化と私たち（p64～115）
 (2) 第一次世界大戦と国際社会（教科書該当ページはp74～76）
 ○小項目を貫く問い：第一次世界大戦は、世界にどのような影響を与えたのか？

○今日の問い：第一次世界大戦は、それまでの戦争と何が違うのか。

1. 第一次世界大戦の特徴を答える

Q1 史料1・史料2のポスターは、どのような意図でつくられたと思うか？

Q2 史料3の兵士は、イギリス軍に動員された兵士である。どの国の兵士だろうか？（1つ選んで丸を付けて）
 ①オーストラリア ②インド ③エジプト

Q3 図4は、19世紀のおもな戦争と第一次世界大戦の戦死者数を表したグラフである。第一次世界大戦による戦死者数が、それ以前の戦争と比べて多いか少ないか？それはなぜ？（史料5を参考に）

Q1～Q3を使って、第一次世界大戦の特徴を自分の言葉でまとめてみよう！（簡単によいです）

《資料集》(2) 第一次世界大戦と国際社会 授業ワークシート No.23に付随

史料1 アメリカ軍向け募兵ポスター（1917年） 史料2 第一次世界大戦中にイギリスで作られたポスター（1915年）

英文の意味
「アメリカ陸軍にはあなたが必要だ。
最前線の戦士事務所へ」

英文の意味
「イギリスの女性達は“行け！”と言う」

歴史総合 小項目(2) 第一次世界大戦と国際社会 学習記録シート 2年A組 冊 氏名

○小項目を貫く問い：第一次世界大戦は、世界にどのような影響を与えたのか？

○小項目を貫く問いに対する学習後のあなたの考え（具体的に記述）

学習者の記述

学習日 月 日 曜日

○授業の問い

○問いの答え

本時は「第一次世界大戦は、世界をどう変えたのか」という主題について、「情報の収集」「整理・分析」する授業となっている。

2 実践のポイント（指導と評価のポイント）

※学習記録シートを活用し、生徒一人一人の思考を正確に見取り、次の指導に生かすよう工夫しています。

○ 評価規準と評価方法

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準		総力戦や第一次世界大戦後の国際協調体制、大衆社会の形成、社会運動の広がり、国際協調体制の動揺、第二次世界大戦後の国際秩序、日本の国際社会への復帰、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化、大衆化の歴史について理解している。また、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。	国際秩序の変化や大衆化に伴う生活・社会の変容について考察し、問いを表現したり、主題を設定、日本とその他の国や地域の動向を比較し、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦から第二次世界大戦までの性格と惨禍やそれら世界大戦下の社会状況・人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	国際秩序の変化や大衆化と私たちに、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究している。
主な評価方法	定期考査	○	○	
	プリントの記述内容	○	○	○
	グループワーク・ペアワーク	○	○	○
	行動の観察	○	○	

一人一人の学習状況を把握するため、授業中は机間巡視を欠かさず行っている。

予め評価規準を示すことで、生徒自身が見通しをもって学習を進め、改善を図ることができる。

大項目Cの学習記録シートで既習事項の振り返りができるように工夫されている。

歴史総合 大項目C「国際秩序の宣化や大衆化と私たち（第2部）」学習記録シート

（1）国際秩序の変化や大衆化への問い

①あなたの立てた「問い」を記入して下さい。（授業ワークシートNo.22に書いてあるものでも可）

「小項目（2）第一次世界大戦と国際社会」「小項目（3）1920年代の世界と大衆の時代の到来」の学習の振り返り

《振り返り①》自分が立てた「問い」について新たに気づいたことや、さらに追究したいことなどをまとめましょう。

《振り返り②》最初に立てた「問い」が変化した場合、変化した「問い」となぜ変化したか（理由）も記入して下さい。

「小項目（4）国際協調の挫折と二度目の世界大戦」「小項目（5）世界大戦がもたらしたものの」学習の振り返り

《振り返り①》自分が立てた「問い」について新たに気づいたことや、さらに追究したいことなどをまとめましょう。

《振り返り②》最初に立てた「問い」が変化した場合、変化した「問い」となぜ変化したか（理由）も記入して下さい。

3 地理歴史科における探究を充実させるためのポイント

- 「社会的な見方・考え方」を意識して単元を貫く問いを設定します。
- 「課題の設定」→「情報収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」という探究のプロセスを意識して単元をデザインします。
- 生徒が多面的・多角的な考察ができるように諸資料等の活用方法について工夫します。
- 社会的事象に関わる事象を追求したり解決したりする活動を単元のどこに位置付けるかについて、年間指導計画を立てる際にしっかり検討します。

他者とのつながりを意識した探究的な学び

【概要】

北海道旭川東高等学校 白田教諭は、社会的な見方・考え方を働かせ、対話を通して互いの立場を理解させる取組を通して生徒が自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重できる態度の育成を図る授業実践を行いました。



1 実践（様々な視点で議論するための工夫）

まとめ・表現

○ 単元の指導と評価の計画

詳細はこちら



3 指導と評価の計画（2時間）

第1次	指導項目	問い・学習活動	知	思	態	評価の場面・留意事項
第1次 (2時間 抜) 1時間目	社会的な見 方・考え方を 広げるワーク シートの配布	【単元を貫く問い】 国際連合は、世界の平和と安全のためにどのような取り組みを行い、現在どのような課題を抱えているのだろうか。 第1次の問い 「国際的な相互依存関係が深まる中、企業やNGOはどのような国際貢献を行っているのか？」 【大きな問い①】 「国際貢献に活躍する主体とは？」 →近年、諸問題が世界中に波及しやすくなった背景から「相互依存関係」の深まりを理解させる。 →〈小さな問い〉 「困っている外国の人々を助ける国際貢献に取り組んでいるのはどんな人たち？」 →事例として「ヤクルトレディ」を紹介し、グループで調査する。 →〈小さな問い〉 「ヤクルトレディの宅配体制がなぜ発展途上国進出の強みとなったのか？」⇒BOPシステム 【大きな問い②】 「国家間の取り決めには多様な主体が参加するべきか？」 →事例として「オブジェ壊れた椅子」を紹介する。 →〈小さな問い〉 「これは何を表現しているのか？」 「対地雷の問題性とは何か？」 ⇒対地雷全面禁止条約(オタワ条約)について説明。 【大きな問い③】 「国家だけで軍縮交渉を行うとなかなか進まないけれど、なぜNGOが関わると制定できたのか？」 【大きな問い④】 「SDGsの達成に向けてどのような取り組みが行われているだろうか？」				● 基本原則として授業50分すべてグループ学習とする。 ●→単元を通して、日本国内だけでなく、世界の中での日本の立ち位置、世界各国の動きや動向を考えられているか。 ○→ワークシート 議論・発表を通して評価する。 ○→自分たちの考えとは他に先哲の考えや価値観を取り入れることができるか。様々な平等を実社会のなかで結び付けて理解する。 ○→様々な平等について理解した後に生まれた新たな疑問について「合理的か」という視点から思考できているか。

本時では特に協働的な学びの充実を意識している。



伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに、他者の価値観を尊重する態度を育成する。

社会的事象を倫理、政治などに関わる多様な視点（概念や理論）に着目して捉えさせる。

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、対話的・主体的で深い学びを目指している。

2 実践のポイント（指導と評価のポイント）

○ワークシートを活用し、一人一人の思考のプロセスを評価し、個々の理解度を把握することで授業改善につなげています。

★社会的な見方・考え方を広げるワークシート【第35講】★

第35講問い

国連中心主義の現代において、日本はどのような存在でいられるのか？

◎SQ1「日本はこれまでどのような国際貢献をしてきたのだろうか？」

【国連の予算分担率と事務局職員数から】

国	予算分担率 (2018年)	事務局職員数 (2018年末)	望ましい 職員数の範囲 (2018年末)
アメリカ	22.00%	360人	383人～519人
日本	9.68%	75人	172人～233人
中国	7.92%	89人	169人～229人
ドイツ	6.39%	159人	116人～156人
フランス	4.86%	138人	89人～121人
イギリス	4.46%	123人	83人～112人

《読み取れることは？》

課題解決のための選択・判断に資する**概念**や**理論**などを活用し、深い学びが実現できるよう、問いの設定を意識している。

模擬国連に関わるワークシート

自分の考えを主張するだけでなく、対話を通して様々な立場の主張を理解し、他者理解を促す工夫がなされている。

インターネットや諸資料を活用し、主体的に情報を収集、分析し、根拠を持って自分の考えを述べるという本時のながれを想定してワークシートを作成している。

☆ その国の代表になりきり、ロールプレイで議論しよう！

さん(国:)の主張	さん(国:)の主張
さん(国:)の主張	さん(国:)の主張
さん(国:)の主張	さん(国:)の主張

あなたのグループがなりたいと思う代表国は？

なぜそう思った？

まずはその国の現状や課題について調べてみよう。

3 公民科における探究を充実させる指導と評価のポイント

- 課題を追究したり解決したりする際に、適切な概念等に着目して考察したり、その過程や結果を表現する学習過程を適切に設定し、その実現状況を評価基準とすることが大切です。
- 「思考・判断・表現」の評価については、論述やレポートを課して評価したり、発表やグループでの話し合いなどの場面で評価することが考えられます。
- 生徒が多面的・多角的な考察ができるように諸資料等の活用方法について工夫することが大切です。

日常生活の事象を、既習事項と関連付けることにより見いだした問いの考察を通した探究

【概要】

北海道枝幸高等学校の佐藤教諭は、「集合と命題」における「命題の真偽」について、「 p ならば q 」と表現された日常生活の事象を既習事項と関連付けて問いを見いだし考察する実践を行っています。



1 実践（数学Ⅰ「集合と命題」における実践）

整理・分析

【単元の目標】

集合と命題について、数学のよさを認識し積極的に数学を活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断する態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身に付ける。（学びに向かう力・人間性）

【単元の指導と評価の計画】

時間	ねらい・学習活動	重点	記録
8	「ならば」を用いて表現されたことがらを、既習事項と関連づけて論理的に考察できる。また、2次不等式の問題解決の過程を振り返って、「ならば」を用いて表現されたことがらについて <u>考察を深めよう</u> としている。	思考	○

【【教師（T）の発問／生徒（S）の活動及び反応】

T「『試験に合格した（ p ）ならば、ゲームを買う（ q ）』を命題と仮定して、『 p でないならば q である』の真偽を考えてみよう。」

S「試験に合格していないなら、ゲームは買えないと考えるので、偽だと思います。」

T「考えはわかりました。では、これまで学習した事項と関連付けて考えてみましょう。 $y = -x^2 + 2x - m(2 - m)$ において、 $-1 \leq x \leq 2$ の範囲で y の値が常に正である m の値を求める問題を思い出しましょう。言い換えると、『 $-1 \leq x \leq 2$ ならば y の値が常に正である』を真とする m の値を求める問題です。このとき、 $-1 \leq x \leq 2$ 以外の範囲はどうでしょう。」

S「 y の値が正となっていたり、負となっていたりします。…あ、なるほど！ $-1 \leq x \leq 2$ では y の値が正であるからと言って、 $-1 \leq x \leq 2$ 以外の範囲では、 y の値が負になるとは限らないんだ！だから、偽なのですね。」

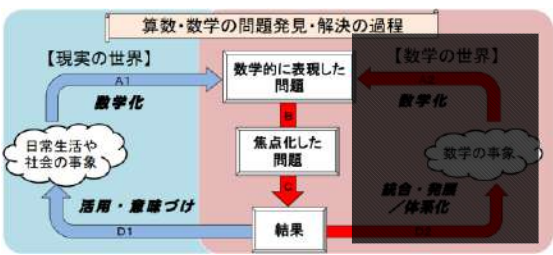


単元の指導と評価
の計画はこちら



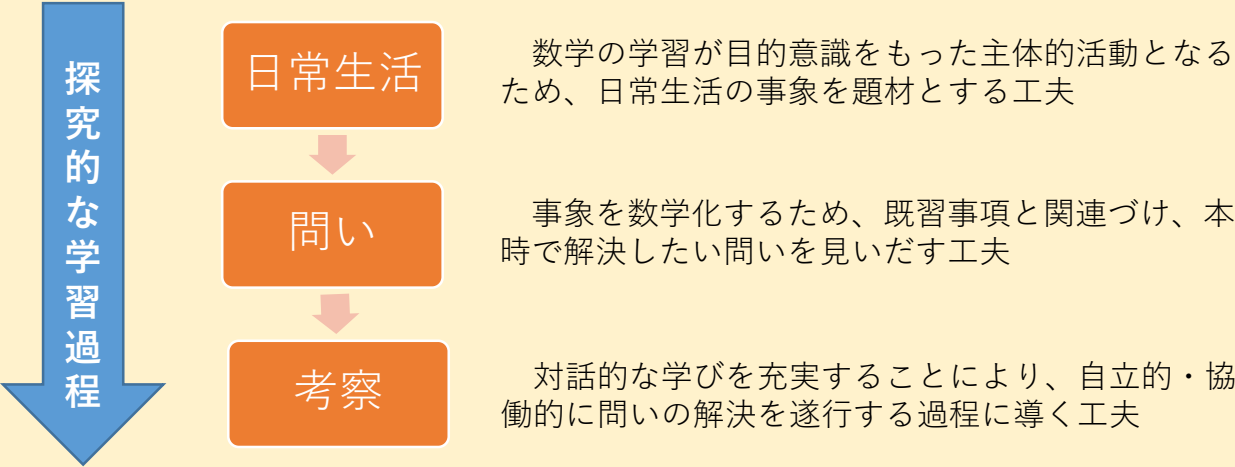
2 実践のポイント（日常の事象から問いを考察する工夫）

探究的な学習過程の充実により、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようしたり、粘り強く考えようとするなど、数学的に考える資質・能力を育む観点で指導と評価の一体的な充実を図る工夫をしています。



【ねらい】

2次不等式の問題解決の過程を振り返って、「ならば」を用いて表現されたことがらについて考察を深めようとする態度を養う。



【評価規準】

- 2次不等式の問題解決の過程を振り返って、「ならば」を用いて表現されたことがらについて考察を深めようとしている。

3 数学科における探究を充実させる指導と評価のポイント

数学科においては、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動（探究的な学び）を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指します。その際のポイントは次のとおりです。

- 目的意識をもって事象を数学化して自ら問題を設定することが大切です。
- 数学的に考える資質・能力は、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して育成が図られるため、数学的活動（探究的な学び）が位置付けられた単元の指導と評価の計画を作成することが必要です。
- 単元の指導と評価の計画に基づき、指導の充実を図るとともに、生徒の学習状況を評価し、生徒の学習や教師の指導の改善に生かすことにより、一層の探究の充実が図られます。

試行から見いだした問いの考察による探究

【概要】

北海道士幌高等学校の平教諭は、「数学と人間の活動」において、数理パズルを通して、試行や実験をもとに、予想を通して問いを見だし、問いの解決のために、数学を活用し数学的論拠に基づき考察する実践を行っています。



1 実践（「数学と人間の活動」における実践）

課題の設定

【目標】

具体的な数理パズルの問題解決の過程を振り返って考察を深めようとする態度を養う。

単元の指導と評価の計画はこちら

【題材】

1 から n までの番号が書かれたカードが2枚ずつある。同じ番号のカードの間には、その番号が示す枚数のカードがあるように、すべてを横1列に並べられるか。



【教師（T）の発問／生徒（S）の活動及び反応】

T「まずは、 $n=2$ として考えてみましょう。」

S「【2〇〇2】だから、【2 1 1 2】と並べられると考えます。」

T「同じ番号のカードの間には、その番号が示す枚数のカードが必要だから、「1」と「1」の間に1枚のカードがないと条件を満たさないよね。」

S「では、 $n=2$ のときは並べられないのではないのでしょうか。」

S「 $n=3$ 、4のときは並べられたのですが、 $n=5$ 、6のときは並べられません。」

T「 $n=1$ 、2のときも並べられなさそうでしたよね。」

S「 $n=1$ 、2のときは並べられない、 $n=3$ 、4のときは並べられる、 $n=5$ 、6のときは並べられないということは、規則性があるから、 $n=7$ 、8のときは並べられるのではないのでしょうか。」

T「まずは $n=5$ 、6のときは並べられないのか、確かめてみましょう。」

課題（問い）を見いだした姿



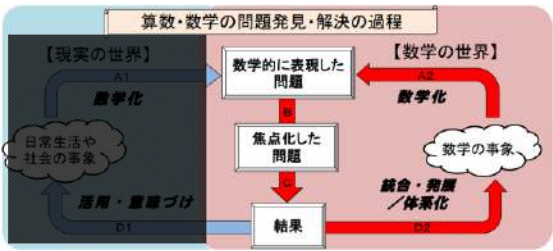
$n=5$ 、6のときは並べられないね。

は $n=5$ 、6のときは並べられないのか、確かめてみましょう。



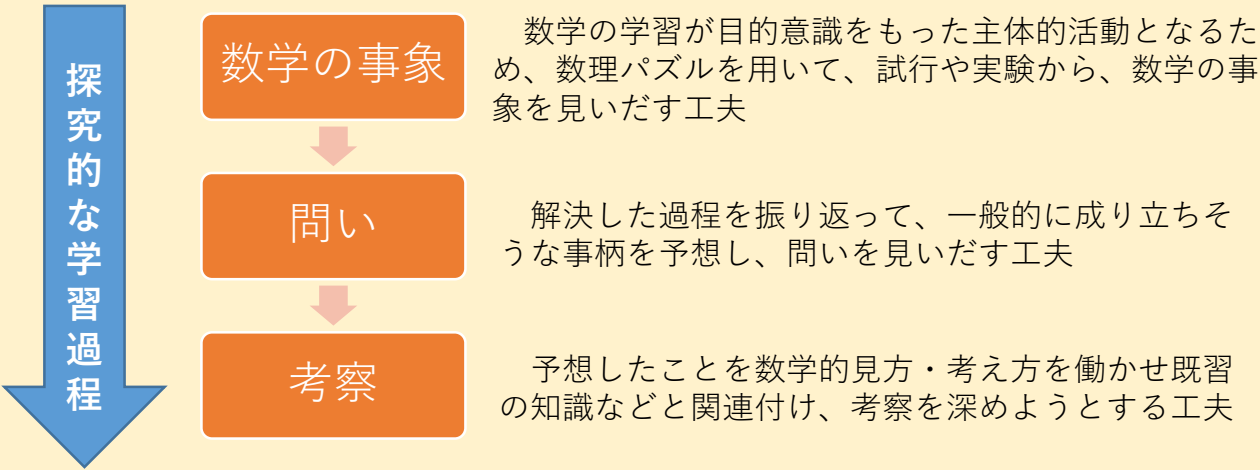
2 実践のポイント（試行から主体的に問いを見いだす工夫）

探究的な学習過程の充実により、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようしたり、粘り強く考えようとするなど、数学的に考える資質・能力を育む観点で指導と評価の一体的な充実を図る工夫をしています。



【ねらい】

具体的な数理パズルの問題解決の過程を振り返って考察を深めようとする態度を養う。



【評価規準】

- 具体的な数理パズルの問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。

3 数学科における探究を充実させる指導や評価のポイント

数学科においては、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動（探究的な学び）を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指します。その際のポイントは次のとおりです。

- 目的意識をもって事象を数学化して自ら問題を設定することが大切です。
- 数学的に考える資質・能力は、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して育成が図られるため、数学的活動（探究的な学び）が位置付けられた単元の指導と評価の計画を作成することが必要です。
- 単元の指導と評価の計画に基づき、指導の充実を図るとともに、生徒の学習状況を評価し、生徒の学習や教師の指導の改善に生かすことにより、一層の探究の充実が図られます。

生徒が問いを立てることからはじめる探究的な学び

【概要】

北海道釧路北陽高等学校の矢萩教諭は、生徒が課題発見能力や課題解決能力を身に付けられるよう、生徒自身が単元の始まりに問いを立て、実験などを通して解決を図り、単元の終わりにその問いの答えについて発表する機会を設定した探究的な学びを実践しています。



1 実践（単元の指導と評価の計画）

詳細はこちら

科目	化学	学年	2年	単元名	
指導と評価の計画					
時間	ねらい・学習活動				
1	身の回りの現象から、電気エネルギーに関する問いや疑問を見つける				
2	ダニエル電池の製作から、用いていることを理解する				
3	ダニエル電池の性能を上げる。確かめることで、起電力や電圧について				
4	二次電池の製作を通して、重電解について				
	かを検証する				
12	単元のまとめとして、各自の問いの答えを考え、資料を作成する				
13	問いの答えを発表する				

生徒が主体的に学習に取り組めるよう、生徒自身が単元に関わる問いを立てる。

課題の設定

生徒が立てる問いの範囲は「日常生活と電気エネルギーの関連」とし、広く生活の中から問いを立てるように促している。

（STEAM教育の視点）

課題の設定

単元の最後には、最初に立てた問いの答えについて発表する活動を設定している。

まとめ・表現

2 実践のポイント（「課題の発見」と「表現・伝達」の過程を重視）

これまでの授業を振り返り、自身の課題をもとに授業を改善

- 【課題1】 課題発見の場面の不足 ⇒ 生徒が問いを立てる授業へ
- 【課題2】 実験が授業時間を圧迫 ⇒ マイクロスケール実験等の導入
- 【課題3】 生徒の意見が定型的 ⇒ 心理的安全性の確保、表現の機会増加



(1) 単元計画を立てる際に「課題の設定」と「表現・伝達」の過程を重視

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
電池や電気分解について、酸化還元反応と結び付けて、電気エネルギーを取り出したり、利用したりする仕組みを理解する。	物質の性質や組み合わせから、電気分解の結果を予想したり、ファラデーの法則について検証したりすることができる。	身の回りの電気エネルギーが使われている技術や、工業的製法について自ら調べ、課題を発見したり、その利便性について考えをもったりすることができる。

単元の目標を設定する際にも、これらを意識している。
(赤字の部分)

拡大版はこちら



- ・生徒が問いを立てる授業をデザイン
⇒ 問いづくりに必要な「焦点」を用意

例： 単元：電池と電気分解

「電気エネルギーと生活」で思い浮かぶ画像を各自で調べ、各自で問いづくりを行う。

「問いを考えなさい」だけでは問いは立てられない
→ 明確な焦点が必要

課題の設定	他教科や他科目とのつながり 社会との関わりへの意識
生徒の問い ・ほかのエネルギーから電気エネルギーに変換するにはどうすればいいのか ・場面によって電池を使い分けるのはなぜか ・電子マネーはどのように反応してるのか ・置くだけ充電の仕組みはどのようになっているのか ・なぜ画面をタップして操作できるPCとできないPCがあるのかなど	

← 実際に生徒が立てた問いがこちら

※ 課題の設定は、STEAM教育においても重視されています。日頃よりSTEAM教育の要素を取り入れていることから、生徒が立てる問いにも「社会とのつながり」や「他教科とのつながり」が感じられます。

- ・表現の場として「電池コンペ」を実施
⇒ 電池の製品開発案を考え、実験活動として製作、改善を行い、製品のアピールポイントや自社努力について語る機会を設定

詳細はこちら



(2) 探究の過程を意識した評価規準の設定

思考・判断・表現
①電池の性能を高められるような方法を考え、実験で確かめることができる。 ②電極や電解質の特徴を活かして、電気分解の結果を予測し、実験で確かめることができる。 ③実験を通してファラデーの法則を検証することができる。

実験を通して
「仮説の設定」「実験の実施」
「考察・推論」の過程を重視

単元のねらい（重視する過程）に応じて、評価規準を設定している。
(赤字の部分)

詳細はこちら



3 理科における探究を充実させる指導と評価のポイント

- 探究的な活動を取り入れた単元の評価においては、生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を重視し、教師が自らの指導のねらいに応じて、授業での生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくことが重要です。また、「記録に残す評価」における3観点については、年間を通じてバランスよく評価する必要があります。

探究的な学びで生徒を主人公にする

【概要】

北海道鹿追高等学校の吉岡教諭は、生徒の主体性の向上と思考を深化させるよう、生徒自身が実験計画を立てたり、結果を踏まえて計画を修正したりするなど、生徒が試行錯誤する場面を大切にした生徒主体の探究的な学びを実践しています。



1 実践（単元の指導と評価の計画）

詳細はこちら

科目	理科・物理	学年	3年	単元名	(イ) 電流と磁界
時間	ねらい・学習活動				
1	・日常生活に関わる様々な電流と磁界に関する <u>道具に触れる活動を通して、電流と磁界に関する知識及び疑問点をできる限り挙げる。</u>				
2	・磁気力の大きさは何によって変化するのかを <u>予想し、定量的もしくは定性的な実験計画を立案する。</u>				
3	・磁気力を測定する実験を通して、磁気力の大きさ、電流の大きさ、磁気量と磁極間の距離との関係を見いだす。				
4	・方位磁針を用いて電流による磁界を観察する。電流が流れる方向と磁界の様子を理解する。				
5	・電流が磁場から受ける力の定性的な実験を通して、電流が磁界から受ける力の大きさには電流の大きさ、電流の方向、電線の長さなどが影響することを理解する。				
					表現・伝達

単元に関わって、生徒が各々疑問点を数多く挙げることで、自分事として単元の学習に取り組めるようになる。

課題の設定

実験計画を生徒が立案して実験を行う。実験結果については、生徒同士で対話をしながら分析・解釈を行う。

2 実践のポイント（主体性の向上と思考の深化を目指す）

(1) 自らの疑問を出発点にした単元構成

- ・物理以外の授業においても「単元に関係する疑問を挙げる」取組を実施。
- ・最初に、実物（生活用品、実験器具など）に触れる時間を設定。

生徒が自らの学習を調整できるよう、「教員ゴースト授業」と銘打った授業をしていますが、この時間は、生徒が疑問を持てるように、少しだけ介入するようにしています。

課題の設定



詳細はこちら

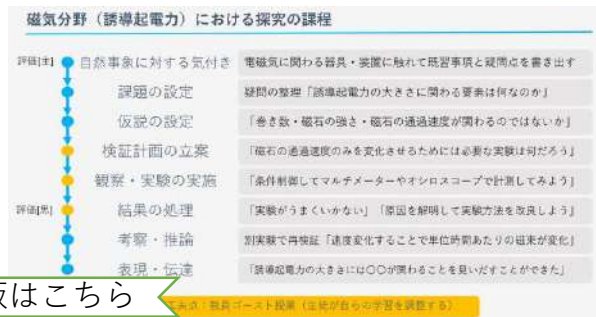


(2) 生徒による実験計画の立案と修正

- ・探究の過程の『検証計画の立案』を生徒に体験させることで、意欲の向上や実験結果に対する考察において思考の深化が見られました。



拡大版はこちら



【生徒による実験計画書】

【実験の様子】

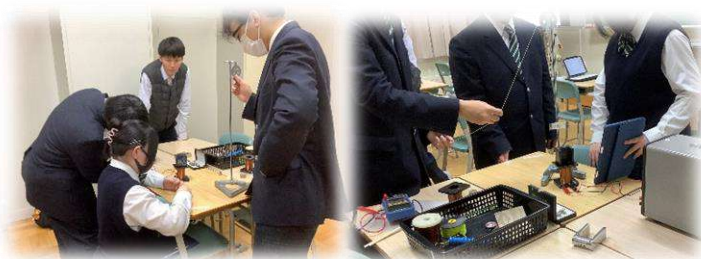
B 電磁誘導における誘導起電力[V]の大きさは何によって決まる？

(3) 生徒氏名 草案 (磁石の通過速度)

準備 磁石 コイル デジタルマルチメーター（オシロスコープ）
速度測定器 滑車 スタンド 紐 セロハンテープ
複数のおもり（反磁性体）

手順

- ①コイルとデジタルマルチメーター（オシロスコープ）を接続する
- ②おもりと紐を磁石につなげ、紐を滑車にかける
- ③コイルを磁石が垂直に落下したときに中心を通るように移動させ、磁石の軌道上に速度測定器を固定する
- ④紐を手放し磁石を落下させ、デジタルマルチメーター（オシロスコープ）と速度測定器の結



対話しながら実験を行う生徒たち

生徒の作成した
実験計画はこちら



実際の授業の
様子はこちら



(3) 科学的な思考ができているかを評価

- ・探究の過程を踏まえた学習により、科学的に思考・判断する力がどれだけ身に付いたかを評価。
- ・主体的に学習に取り組む態度は、既習の単元の知識や考え方をもとに、見通しを持ったり、振り返ったりしながら学習を進めているかを見取ることによって評価。
- ・評価規準と評価材料について事前に周知し、単元ごとの観点別評価は生徒に開示。
→ 生徒が評価を踏まえて学習調整できるようにしています。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
電流と磁界を日常を演や社会と関係付けながら、電流による磁界、電流が磁界を生み出す力、電磁誘導、電磁波についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	電流と磁界について、観察、実験などを通して探究し電流と磁界における関係性や因果性を見いだして表現している。	電流と磁界の学習に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

ワークシート考察欄より評価

評価Aの例：実験結果の～と～から、○の大きさには△が関わるのが分かった

評価Bの例：実験結果から○○と○○は比例関係がみられた

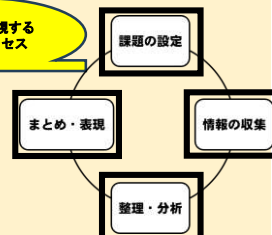
評価Cの例：実験では～結果が見られた

拡大版はこちら



3 理科における探究を充実させる指導と評価のポイント

- 理科においては、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する際に、生徒の取組に対する評価規準を設定することが重要です。その規準に基づき、振り返りの際には、蓄積した学習の記録から学習前と学習後で、他者の視点等が自己の視点にどのような影響を与えたかについて分析し、授業者はその変容について「主体的に学習に取り組む態度」として評価することなどが例として考えられます。



「話すこと [発表]」につながる探究的な学び

【概要】

北海道苫小牧東高等学校の田中教諭は、「話すこと [発表]」のパフォーマンステストに向けて探究的な学びの4つのプロセスや英語ディベート活動を効果的に取り入れながら、主体的・対話的で深い学びを実現しています。



1 実践（単元の指導と評価の計画）

詳細はこちら

単元名	Unit 6 How do people's personalities affect their behavior? (ENRICH LEARNING Ⅱ)			
単元の目標	・内向的な人の特徴について理解する。 ・性格が振る舞いに及ぼしている影響について説明する。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価規準	性格と行動に関する情報について、英語を活用して聞く、読む、書く、話すために必要な技能を身につけている。	・性格と行動に関する英文を聞いたり読んだりして、概要や要点を的確に捉えることができる。 ・場面や目的、状況に応じて、自分の意見を書いたり話したりすることができる。	・性格と行動に関する英文を聞いたり読んだりして、概要や要点を的確に捉えようとしている。 ・場面や目的、状況に応じて、自分の意見を書こうとしたり、話そうとしたりしている。	
時 間	ねらい(■)、言語活動等(丸数字)		知 思 態	備考
課題の設定	■課題の設定 (How do people's personalities affect their behavior?) ①Warm-Upの活動を通して、単元に関連する題材についてブレインストーミングを行う。 ②Listening 1での活動を通して、introvertとは何かを学ぶ。 ③課題 (How do people's personalities affect their behavior?)の提示			単元を通じて育成を目指す資質・能力を踏まえた「課題の設定」
情報の収集	■情報の収集① (Type of the personalities) ①Grammarでの活動を通して、情報収集する際に用いる文法について理解する。 ②Reading 1を読み、personalityのタイプ(introvert, extrovert, ambiverts)について理解する。			教科書を使った「情報の収集」
整理・分析	■整理・分析① (Type of the personalities) ①Reading 1のComprehension活動を通し、personalityのタイプ(introvert, extrovert, ambiverts)についての情報を整理する。 ②Visual Information and Retellingの活動を通し、収集した情報を用いて相手に伝える発信活動を行う。活動の際は、写真の描写に加え、「自分は～だと思う」と収集した情報を分析した自分の意見も相手に伝える。			「協動的な学び」による「整理・分析」
情報の収集	■情報の収集② (Which personality type are you?) ①Listening 2とReading 2での活動を通して、自分の性格がintrovertかextrovertかを確かめてみる。 ②性格診断テスト(16 personalities)を行い、自分の性格を理解する。			「個別最適な学び」による「情報の収集」
整理・分析	■整理・分析② (Which personality type are you?) ①プレゼン原稿に性格診断の結果を英語でまとめる。 ②debate形式でクラスメートから意見をもらい、自分の意見を整理する。			「主体的・対話的で深い学び」による「整理・分析」
まとめ・表現	■まとめ・表現 (How do people's personalities affect their behavior?) ①パフォーマンステスト(別紙計画)の実施			「まとめ・発表」となるパフォーマンステストの実施

2 実践のポイント（「話すこと[発表]」のパフォーマンステスト）

探究的な学びを通した指導と評価の一体化を実現しています。

領 域	() 話すこと [やり取り] (○) 話すこと [発表] () 書くこと
関連する Can-Do リスト	学校や身の回りの話題に関する自分の考えをスピーチすることができる。 日常的な話題（性格）に関するスピーチをパフォーマンステストで評価
実施内容	単元の課題である「How do people's personalities affect their behavior?」について、収集した情報について、整理・分析した結果をまとめ、表現する。
実施方法	・生徒（一人）対教師（一人）で実施する。 ・教師はALT や同学年の英語教師と協力し2～4 名が同時に授業に参加する。 英語科のチームでパフォーマンステストを実施 ・内容は以下の通り。 ①一人あたりの制限時間は90 秒とする。 ②生徒は発表スライドを用いることとする。 ③性格診断テストの結果と自分の行動について紹介すること。 ④性格が振る舞いに影響を及ぼしているかについての自分の意見を述べること。

単元のはじめに生徒に示すことで見通しを持って主体的に取り組ませる工夫

■ 採点の基準

・「思考・判断・表現」についての3つの表現

条件1：自分の性格と振る舞いについて、収集した情報を整理・分析して述べている。

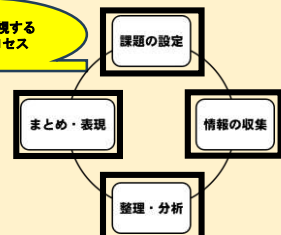
条件2：性格が振る舞いに影響を及ぼしているかについての自分の意見を述べている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	語彙や表現が適切に使用されている。	2つの条件を満たした上で、関連した情報や自分の考えを詳しく述べている。	2つの条件を満たした上で、関連した情報や自分の考えを詳しく述べてようとしている。
B	多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使って情報を伝えている。	2つの条件を満たしている。	2つの条件を満たして情報を伝えようとしている。
C	Bを満たしていない。	Bを満たしていない。	Bを満たしていない。

単元の各言語活動を通して「指導に生かす評価」を行いながら、パフォーマンステストにつなげる

3 外国語科における探究を充実させる指導と評価のポイント

- 探究的な学びのプロセスを意識した単元の指導計画を作成することにより、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることができます。
- 探究的なプロセスの中に英語ディベート活動と「話すこと [発表]」のパフォーマンステストを取り入れることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ることができます。
- 生徒の主体性を高める「指導に生かす評価」の充実を図ることが大切です。
- 学年の英語の探究的な学びの成果と課題を踏まえて、校内研修や相互の授業参観等を通じて、学校全体で探究的な学びの指導と評価の一体化を推進することが必要です。



遠隔授業を通じた探究的な学びの指導と評価

【概要】

北海道南茅部高等学校の藤内教諭は、他校とオンラインで合同授業を行い、プレゼンテーションやディベートを通じた交流をしながら、探究的な学習の指導と評価を推進しています。



Google Classroom (Meet, Chat等) を効果的に活用して教員間の打合せを実施

1 実践（オンラインプレゼンテーション・ディベート）



詳細はこちら

南茅部・礼文 合同授業指導案（概要）

目標：他校との生徒との交流を通して、自分の住む地域以外の土地や文化について知り、異なった考え方や生活習慣を伝えたり、受け入れる姿勢を養うとともに、英語での学校・地域紹介やディベートといった協働活動の中で、英語での表現力や論理的思考、協働力を高める。

評価基準： 探究的な学びを意識し、生徒が主体的・対話的で深い学びを実現するための評価基準と言語活動を設定

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○プレゼンテーションやディベートにおいて、相手に自分の伝えたい内容や主張が伝わるよう、適切に言葉や表現を使用したり、相手とやりとりをするための表現を適切に使用したりしている。 ○他校のプレゼンテーションやディベートの内容を理解し、的確な質問や返答をしている。	○プレゼンテーションやディベートにおいて、自身の伝えたい内容や主張が伝わるように、情報を取捨選択したり、論理的に整理したりしている。 ○自身と相手の立場や主張を考慮しながら伝える内容を決定したり、聞いたり読んだりした内容をもとに相手とやりとりしたりしている。 ○他校との交流を通して異文化理解を深め、自校の特徴や利点を効果的に紹介している。（プレゼンテーション） ○テーマに対して、自分の意見を論理的に整理し、根拠を持って主張している。（ディベート） ○他者の意見や主張に対して適切に反論や支持を行い、建設的に進めている。（ディベート）	○聞き手を意識して自分の伝えたい内容や主張を組み立てたり、リハーサルの中で調整したりして、プレゼンテーションやディベートの準備に積極的に取り組もうとしている。 ○他校との交流の中で、積極的に質問をしたり、相手の考えを取り入れたりすることを通して、自身の意見や考え方をより深めようとしている。 ○チームワークやコミュニケーションを工夫し、効果的なディスカッションをしようとしている。

対象：南茅部高校3学年（12名）、礼文高校2学年（14名）
 時数：2時間
 方法：各校の生徒を3～4人のグループに分け、各グループ1台のタブレットを用いて交流。教員用に各1台接続し、モニターから全体をコーディネート。

課題の設定

交流①：お互いの学校と地域を紹介

Minamikayabe × Rebun Remote Interaction ①

GOAL

1. Introduce your own region or school effectively in English.
2. Ask questions about the presentations from other school in English.

課題の設定

交流②：「高校生は卒業後、地元にとどまるべきか」オンライン英語ディベート

Minamikayabe × Rebun Remote Debate ①

Topic: "High school students should stay in their hometown after graduation!"

GOAL

1. Present an argument with reasons and specific examples.
2. Refute the opponent's argument with reasons and specific examples.

0. 事前準備

- ・ 4グループ作成し、2グループは学校紹介、もう2グループは地域紹介のプレゼン資料を作成する。
- ・ 発表は英語とし、発表時間は約7分を想定する。
- ・ 資料は南茅部・礼文の生徒の共有ドライブ内に保存する。

1. オリエンテーション（5分）

- ・ Zoomを通じて、他校の生徒と挨拶を行い、授業の流れを確認。
- ・ プレゼンの進め方や質疑応答のマナーを確認。

2. プレゼンテーション1セット目（20分）

- ・ 共有ドライブより発表資料を選択し、画面共有でのプレゼンとする。
- ・ グループAB: 「学校紹介」のプレゼンテーション（7分）
- ・ 質疑応答: 他校の生徒からの質問に答える（3分）
- ・ グループCD: 同様に「地域紹介」のプレゼンテーションを実施（7分）

4. 全体発表と振り返り（5分）

- ・ 各グループからプレゼンの感想や学びを簡単に共有。
- ・ 共有スプレッドシートに感想やフィードバックを記入。

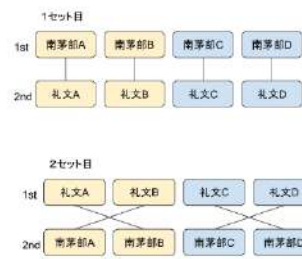
備考

- ・ プレゼン時は、スライドやPPを画面共有しながら行うことが望ましい。（見やすい）

情報の収集

整理・分析

まとめ・表現



0. 事前準備

- ・ ディベートテーマを事前に周知し、グループ分けと役割分担を行う。

1. オリエンテーション（5分）

- ・ ディベートのテーマとルールを確認。
- ・ グループ分けと役割分担を行う。

2. ディベート1セット目（13分）

- ・ テーマ: 「高校生は卒業後、地元にとどまるべきか」
- ・ 4つのグループに分かれ、賛成・反対の立場でディベートを行う。
- ・ ディベート後、各グループで反論点や次のセットに向けた戦略を話し合う。

4. ディベート3セット目（13分）グループを変更して同様にディベートを実施。

5. 全体発表と振り返り（6分）

- ・ 各グループからディベートの感想や学びを簡単に共有。
- ・ 共有スプレッドシートに感想やフィードバックを記入。

指導のポイント:

- ・ 生徒たちが積極的に英語で意見交換できるように、発表前にリハーサルを行う。（特にディベート）
- ・ 質疑応答やディベート中に互いの意見を尊重し、積極的に交流することを促す。

まとめ・表現



2 実践のポイント（「話すこと」のパフォーマンステスト）

遠隔授業で行ったプレゼンテーションとディベートを観点別に評価しています。

第1時間目（10月16日 5校時）：学校・地域紹介（プレゼンテーション）

- 目標：自分の住む地域や学校について英語で効果的に紹介したり、他校の発表を聞いた内容について質問をしたりできる。

評価基準：

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○英語で地域や学校についての情報が相手に伝わりやすいよう、スピーチやスライド資料において語彙や表現を適切に使用している。 （○スライドや資料が明瞭かつ正確な英語で作成されているか。） ○相手の伝えた内容を理解し、質疑応答において適切な表現で質問をしたり、答えたりしている。	○聞き手が内容を理解しやすいよう、地域や学校の情報を論理的に構成したり、視覚資料を効果的に使用したりしている。 ○聞いたことや読み取ったことをもとに、内容を考えたり質問をしたり、質問の核心をとらえ適切に回答したりしている。 （○内容が相手に理解しやすく構成され、視覚的資料（スライドなど）も効果的に活用されている。）	○聞き手が内容を理解しやすいよう、チームのメンバーと話し合ったりして内容を工夫するなど、主体的に事前準備や発表に臨もうとしている。 ○他校の発表内容に興味を持ち、自分のことを伝えたり、相手のことを知ろうとしている。 （○グループワークで他者と協力し、役割分担を行いながら主体的に作業を進めようとしている。）
[a] 上記を満たしている。 [b] 上記を概ね満たしている。 [c] 上記を満たしていない。	[a] 上記を満たしている。 [b] 上記を概ね満たしている。 [c] 上記を満たしていない。	[a] 上記を満たしている。 [b] 上記を概ね満たしている。 [c] 上記を満たしていない。

指導と評価の一体化の工夫

「話すこと〔発表〕」の評価：プレゼンテーション

	Minamikayabe	Rebun
13:25	Opening	
13:30	Presentation (7 min)	Asking Questions (3 min)
13:40	1st Set Asking Questions (3 min)	Presentation (7 min)
13:50	Asking Questions (3 min)	Presentation (7 min)
14:00	2nd Set Presentation (7 min)	Asking Questions (3 min)
14:10	Presentation (7 min)	Asking Questions (3 min)
14:15	Reflection	

0. 事前準備

- 4グループ作成し、2グループは学校紹介、もう2グループは地域紹介のプレゼン資料を作成する。
- 発表は英語とし、発表時間は約7分を想定する。
- 資料は南茅部・礼文の生徒の共有ドライブ内に保存する。



オンラインディベートの様子

論題：「高校生は卒業後、地元にとどまるべきか」

「話すこと〔やり取り〕」の評価：ディベート

	Minamikayabe	Rebun
13:25	Opening	
13:30	Presentation (7 min)	Asking Questions (3 min)
13:40	1st Set Asking Questions (3 min)	Presentation (7 min)
13:50	Asking Questions (3 min)	Presentation (7 min)
14:00	2nd Set Presentation (7 min)	Asking Questions (3 min)
14:10	Presentation (7 min)	Asking Questions (3 min)
14:15	Reflection	

第2時間目（10月30日 5校時）：ディベート

- 目標：他校の生徒と英語でディベートを行い、論理的な議論を展開する。

評価基準：

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○自分の考えを論理的に伝えるための表現や構成を活用したり、声の大きさや話すスピードを工夫している。 ○相手の主張を論理的に理解し、自分の主張を展開する中で、適切な語彙・表現・構成を活用している。 （○立論に対し、語彙・表現を適切に使って反論している。）	条件1例や説明を示しながら立論ができること。 条件2相手の立論を理解し、論点を整理(要約)して述べるができること。(You said~) 条件3裏付けの例や説明を示しながら反論ができること。 これらの条件を満たし、関連した情報や考えなどを適切かつ論理的に話して伝え合うやり取りをしている。	○左記の条件を満たし、関連した情報や考えなどを適切かつ論理的に話して伝え合うやり取りをしようとしている。
[a] 上記を満たしている。 [b] 上記を概ね満たしている。 [c] 上記を満たしていない。	[a] 上記の条件を全て満たしている。 [b] 上記の条件を1つから2つ満たしている。 [c] 上記の条件を全て満たしていない。	[a] 上記を満たしている。 [b] 上記を概ね満たしている。 [c] 上記を満たしていない。

当日の遠隔授業を各グループ毎に録画し、後日、パフォーマンステストとして評価に活用

実際の評価にルーブリックを活用

3 外国語科における探究を充実させる指導と評価のポイント

- Google workspaceを活用し、学校間で指導・評価方法を共有することにより、「話すこと〔発表・やり取り〕」の指導と評価を充実させることが可能です。
- 遠隔地とのオンラインプレゼンテーションやディベートに探究的なプロセスを取り入れることで、生徒の英語コミュニケーションに対するモチベーションを高めることができます。
- 生徒がより主体的に取り組めるよう、事前の準備でルールや役割を確認することが重要です。
- 遠隔授業を通じた外国語科における探究的な学びの指導と評価の成果や課題を、教科等横断的な視点を取り入れながら学校全体で推進することが必要です。